

かわさきの新たなランドマーク

川崎市内を一望できる展望ロビー・スカイデッキを公開



新庁舎は、震災対応にも優れ、大規模災害時にも市民への情報発信、生活再建・復興の中枢拠点として役割を担います。



北東方面には、六郷河川敷や新宿に東京都庁、羽田空港の航空機離発着、東京タワーやスカイツリーなどが一望できます。



南東方向には、横浜ランドマークタワーやベイブリッジ、つばさ橋、また天気の良い日には富士山を一望することができます。

1938年に竣工した川崎市庁舎は、75年の歴史に幕を閉じ、新たに地上25階、地下2階、高さ約117mの新庁舎が誕生。

新庁舎25階には、地上110mの高さから市内を一望できる『展望ロビー・スカイデッキ』が設置され、市内は勿論、東京都内、羽田空港やスカイツリー、横浜ベイブリッジから富士山に至るまで眺望が楽しめます。どなたでも利用でき、入場無料。

【展望ロビー公開時間】

午前9時～午後9時まで
(土日祝日含む)

※設備点検や悪天候時には展望フロアを閉鎖することがあります。

市民代表の議員が熱い議論を展開する議場



議員席後方の傍聴席は、100名が議会の進行を見ることができます。また、親子席が設けられ、小さいお子さんと一緒に安心して議会をご覧いただけます。



議場内「演壇」からの風景。代表質問や討論などおこなう時に使用されます。議場や委員会室では、市民生活に直結する様々な課題を活発に議論されています。

新庁舎23階・24階部分にある市議会議場は、各区選出の議員60人が市民の代表として、活発に論戦が繰り広げられています。

新議場では、新たに採決における押しボタン方式を採用し、大型スクリーンに各議員の賛否が色分けして表示されるなど、採決態度が鮮明になりました。

傍聴の流れ【動画】



「議会かわさき」広報キャラクターのおよよんが川崎市議会の傍聴の流れをご紹介します。

議会中継



開催中の会議および過去の会議をご覧になれます。

会議録検索システム



川崎市議会の本会議・委員会等の全発言を対象に言葉で検索できます。

発行者 川崎市川崎区宮本町1 川崎市議会議員 飯田満

川崎市議会報告



ぜいじのみかた

2025年 vol.6

北九州市議会の議場を視察



特集 PCB廃棄物適正処理に関する北九州市の取り組み及び
児童心理治療施設山口県みほり学園を訪問

川崎市議会議員
環境委員会 委員

みつる
飯田 満



Profile

PCB廃棄物適正処理に関する北九州市の取り組み及び 児童心理治療施設山口県みほり学園を訪問

8月6日、7日に北九州市役所及び児童心理治療施設山口県みほり学園を訪問し、高濃度PCB廃棄物の適正処理に対する行政対応について実績を伺い、意見交換をおこなった。また、山口県みほり学園では、学園内での治療体制や敷地内に併設されている総合支援学校みほり分校の校舎を視察し、児童生徒の学園での心理治療と学校生活及び施設の老朽化に伴う施設整備基本計画について、意見交換をおこなった。

JESCO北九州PCB処理事業所が立地する市ならではの行政の意識

平成13年に施行された「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」の処理基本計画を根拠に、旧環境事業団のPCB廃棄物処理事業等を継承して、現在の間置貯蔵・環境安全事業株式会社が設立された。高濃度PCBを処理する処理事業所は全国に5か所（北九州・大阪・豊田・東京・北海道）設置され、北九州事業所は国策、法令に基づき高濃度PCBの処理体制を全国に先駆けて構築し、平成16年12月から処理施設の操業が開始されている。

第一処理施設、第二処理施設と総工費約750億円をかけて設備投資をおこない、PCB処理施設の安全対策、環境モニタリング、情報公開、住民説明会など、多重的なリスク管理体制を構築しながら九州、四国、中国地方の高濃度PCBの無害化処理をおこなってきた。環境省は、北九州処理事業所の処理完了期限を当初平成26年度末までと定めていたが、安全対策や技術的な課題等のために処理が遅れ、完了できないことが見込まれたため、これまでの区域を超えた対象物の相互融通が必要と判断し、北九州処理事業所に処理完了期限の見直しを迫った。その結果、高濃度は令和



北九州市のPCB廃棄物を担当する行政職員と意見交換

5年、トランス・コンデンサは令和3年までの受入れ処理となった。現在では、第一及び第二処理施設は操業が終了し、処理終了後も解体、跡地管理、今後の低濃度PCB処理への移行などについても協議がおこなわれてきた。施設は、プラズマ溶融分解設備等、廃炉の解体作業が進み、施設の外壁のみが残っている状態だという。

民間事業者に対する高濃度PCB安定器等の使用製品及び保管製品の掘り起こし調査について、北九州市は、JESCO北九州処理事業所を有しているだけに、問題意識が他自治体と比べて高いことがわかった。過去に数度にわたりアンケート調査を実施し、未回答事業者については、市職員とJESCO職員による抜き打ちによる訪問調査を実施するなど、徹底した調査による完全処理に尽力してきた。川崎市は職員体制をはじめ、民間事業者へのアプローチの難しさがあることや北海道PCB処理事業所は、事業終了準備期間を令和8年3月末としていることから、今後の民間事業者への処理推進策への方針を明らかにさせる必要性を伺い知れた。



カネミ油症事件で知られるカネミ倉庫（北九州市の本社）

児童心理治療施設山口県みほり学園を視察 山口県みほり学園では「施設の内外すべてが治療」という位置づけ

山口県みほり学園は、児童心理施設として存在し、昭和47年7月1日に開設した。全国に児童心理施設は54か所設置されているが、山口県みほり学園は全国7番目の設立で、同敷地には、山口県立山口総合支援学校みほり分校が併設されている。

神奈川県においても、川崎市中原区に「川崎こども心理ケアセンターかなで」が児童心理治療施設として全国43番目に設立され、男子ユニット、女子ユニットがそれぞれ14名、高校生ユニットが6名定員の20名が手厚い支援を受けている。職員体制も川崎市の加配が手厚く、50名を超えるスタッフ体制で入園者の支援にあたっているところである。



みほり学園の敷地内にある山口総合支援学校みほり分校の教室

十分に発揮できず、いろいろな症状や不適応を示している子どもたち（小学生・中学生）を対象に、集団生活を体験しながら、心理療法・生活指導・学習指導をとおり、不適応行動の改善を図ることを目的として、児童福祉法に基づき設置されて施設である。

当該学園では、年間行事として、4月に始業式、5月に春の交流タイム、6月に修学旅行等、7月に終業式、9月に始業式、10月に運動会や球技大会、11月に秋の交流タイム、12月にクリスマス会、終業式、1月に始業式、2月に駅伝、卒業生を祝う会、3月に修了式と行事も満載である。

また、セラピスト、児童指導員・保育士、学校教員がそれぞれの分野から専門的に、また、緊密に連携して個々の子どもたちは、本来の健康を取り戻し、スポーツや、様々な行事、学校生活での豊かな体験を通して視野を広げ施設の内外での活動すべてが治療という位置づけである。

訪問にあたっては、県職員及び施設園長の尽力で職員室や大浴場、教室、食堂、学習室、リネン室、図書室などの施設内を視察することが実現した。



昭和47年に開校した分校校舎は、昔ながらの木材使用の廊下

山口県みほり学園の基本理念として①心理治療を必要とする子供に対する切れ目ない支援をおこなうこと、②支援を受ける子供の治療環境の充実、③子供と親の両方を対象とした家族療法の実施、④心理治療の基盤となる専門人材に対する支援体制の構築を実現させる。この4つの柱を基本方針として、施設定員として入所定員35人（小中学生）、通所定員15人（小中学生及び高校生）を対象としている。

山口県みほり学園は、施設の設置から53年が経過していることから分校校舎を除く施設について、現在地での建て替えを前提として計画している。その概算費用は約43億円で、2029年度の利用開始をめざした基本計画が公表されている。

児童心理治療施設とは、主に家庭内の人間関係のもつれや、地域、学校での対人関係のゆがみによって生じた心理的な不安定状態等から本来持っている力を

